

中学校での職業教育を推進せよ



阿多 己清 議員
動画視聴

問 いろいろな職業を知ってもらおう、又は関心を持ってもらうことは大切なことだと思う。中学校での職業教育については、どのような取組が行われているのか。現在、国分中学校で実施されている職業講話を他の学校でも取り組めないか。



職業講話の一コマ

答 職業講話等の社会人を招いた講演会については、11中学校が実施している。職場体験学習も地域の各事業所等の協力を

もらい、全12校が実施している。職業を知り、働くことや目標を持つことの意義について学べる貴重な機会となっている。これらのほか本年度は、地元企業の協力をもらい、地元で働くことの意義等を学ぶ「霧島しごと維新」事業を始めた。

隼人町内山田の豊丸橋の拡張整備を急げ

問 隼人町の角之下川の豊丸橋の拡張整備について、その後の進捗はどうか。

答 昨年度に、県と協議を行いながら予備設計を行った。今後は、地質調査や詳細設計などを実施していく予定だ。橋梁や取付護岸などの整備に伴い、用地の取得が必要となる。地元の方々の協力もいただきたい。

その他の質問

- ・2020鹿兒島国体について

中学校の教職員の負担を減らし生徒の学習環境に力を注げ



新橋 実 議員
動画視聴

問 多くの自治体では教職員の負担軽減を図るために、部活動に対する外部指導者制度への移行を行っているようだが、霧島市はどのように考えているのか。

答 学校教育法施行規則が改正され、これまでボランティアで対応していた外部指導員のほか、「部活動指導員」という職務が新設され、生徒の引率や、部活動の管理運営など教員に準ずる役割を担う事が可能となった。今後は予算措置が必要となるため、国のガイドライン、県の運用方針等を注視して検討する。

市役所窓口等での対応の充実を図れ

問 総合支所等に市民が昼休みを利用して、相談に行くことが多いが、担当者がいけない等の理由で何回も足を運ぶこともあると聞く。現在の職員体制で万全か。

答 昼休み時間中の市民の皆様の要請や問題点について、現在当番制を取って対応している。業務マニュアルの活用や休憩時の職員の連絡体制の強化を図るほか、総合支所等においても限られた職員のみならず、最大限の住民サービスができるよう柔軟に対応していく。

その他の質問

- ・子ども医療費の窓口負担の軽減策について



中山間地域の活性化は図られているか



下深迫 孝二 議員
動画視聴

問 中山間地域の小規模校のある地域に一般住宅の建設はできないか。

答 財政的判断もあるがど田舎に住む者（市長）として議員と同じ方向を感じている。

問 福山地区の台風16号による災害復旧の進捗状況を示せ。

答 市道の5件については完了済みで、農林水産部所管の97件中74件が完了した。山林が一部残っている。

問 昨年の寒波により水道管の破裂が多発した。宅地、畑、山林を通過して

いる配水管の改修状況を示せ。

答 国道10号沿いの配水管を国道の地中に862m布設替えをした。今後も、福山総合支所周辺における布設替えを実施していく予定である。

教育問題について

問 部活指導の先生方の1日の労働時間はどのくらいか。または長時間労働を改善するため外部指導者の採用は考えられないか。

答 部活指導については、春や秋では1時間30分、夏では2時間、冬では1時間程度の時間外指導をしている。外部指導については、9中学校の18部活で18人をお願いしている。



限界マンション対策は大丈夫か



平原 志保 議員
動画視聴

問 市内のマンションの現状はどうか。

答 分譲マンションにつ

避難所にも民間の協力を



徳田 修和 議員
動画視聴

問 避難所指定されている公民館にプランケット等の災害時用備品を整備できないか。

答 本庁及び各総合支所等での集中保管としており、今後もその方針で対

応したい。

問 公共施設の縮減が進められると、避難所の確保も難しくなると思うが、災害時にスーパーマーケットなどへ補助金等を出して受け入れてもらう取組はできないか。

答 避難所としての規定に合致した建物で、避難者を受け入れることが、経営理念に合っている企業ならば、できないことはないと思う。

「西郷どんの宿」復元を機に日当山区の整備を

問 具体的にどのような街づくりをイメージしているのか。

答 物産館や足湯の整備を検討している。また、観光イベントや観光ガイドと連携し、「まち歩き」の拠点施設として活用したい。

問 天降川の河原等を整備して、観光客も住民も安心して散策できるまち

づくりを目指すべきではないか。

答 現在、周辺住民や関係者等とも議論している段階である。



侏儒どん橋

その他の質問

- ・通学困難地域の中学生の通学手段について

特別支援教育の充実を



松元 深 議員
動画視聴

問 特別支援教育は年々充実しているが、特別教育支援員が配置されていない学校もある。現在の実情と課題、今後の方針について問う。

答 今年度の特別な支援が必要とされる小中学校の児童生徒は891人で昨年より110人増加している。特別教育支援員は幼稚園4園に4人、小学校18校に42人、中学校11校に20人配置している。勤務時間の短縮を行い配置人数を増やしているが、配置ができていない学校もある。今回、国の特別支援教育充実の事業に応募し、全国で4か所の指定地域の一つに選

定された。福祉の専門家

による研修機会を設け、特別教育支援員のスキル向上をサポートするともに、関係機関で連携して支援する体制を整えていく。

災害対策は万全か

問 家屋などに近い急傾斜地は治山工事などが進められているが、市道などに災害が及ぶような危険箇所が多くみられる。防災工事を進めるべきと思うが対策は万全か。

答 土砂災害の恐れがある急傾斜地崩壊危険箇所が677箇所あり、急傾斜地崩壊対策事業や、治山対策事業を実施している。

土砂災害警戒区域等の指定、土砂災害警戒情報の提供、防災教育の推進などのソフト面における総合的な警戒避難体制の構築に向けた支援を行いながら、各種対策事業も積極的に取り組んでいく。